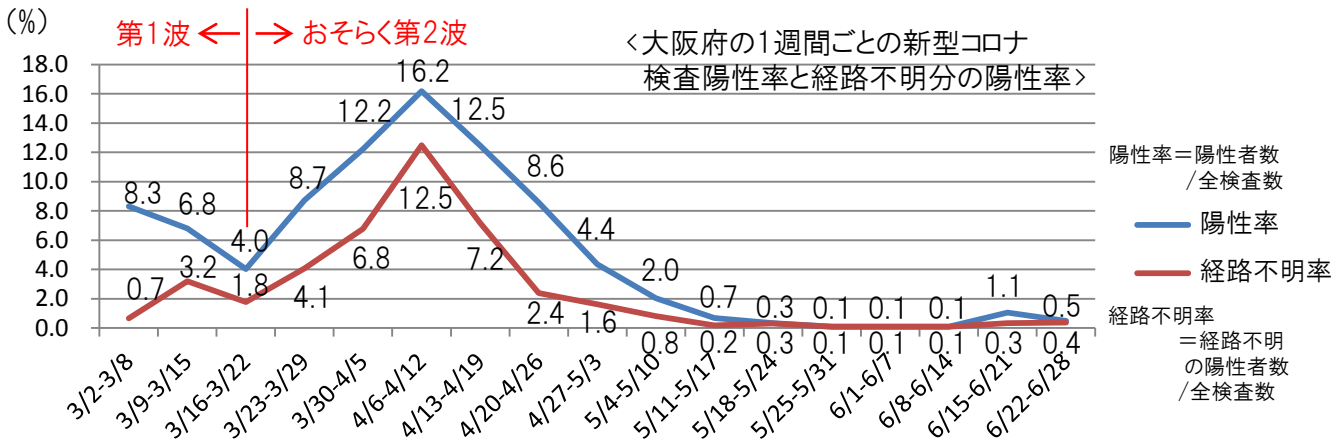


おかげさまで、あかざわ小児科は4周年を迎えました

大阪府発表の新型コロナウイルス感染症陽性者のデータから



大阪府内では非常事態宣言解除後、週に2人ペースでしたが、6月15日から21日の週に22人出て、6月22日から28日は12人です。堺市では5月14日から陽性者が0人が続いていましたが、6月16日と30日に1人ずつ出てしまいました。 出典：大阪府HP『大阪府の最新感染動向 最終更新 2020/06/28』

日本国内で14年ぶりに狂犬病発症を確認、死亡

昨年9月頃にフィリピンで犬に咬まれたあと、今年2月に就労のために来日した外国籍の方が、5月中旬から狂犬病を発症し、6月13日に死亡しました。

ヒトへの感染源の99%はイヌと報告されています

狂犬病は狂犬病ウイルスが原因で、人獣共通ウイルス感染症です。ヒトへの感染源の99%はイヌと報告されていますが、以下のような野生動物も感染源になりえます。咬まれるか(甘噛みでも)、傷口や粘膜を舐められることで感染します。

- アジア、オセアニア：イヌ、オオカミ、キツネ、コウモリ
- ヨーロッパ：キツネ、コウモリ
- アフリカ：コウモリ、マンガース、イヌ、キツネ、ジャッカル
- 北米：コウモリ、アライグマ、スカンク、コヨーテ、キツネ
- 中南米：マンガース、コウモリ、イヌ

日本と世界の状況

日本でもかつてはイヌでの流行(1923年に大阪だけで1,338頭の記録あり)、ヒトへの感染・死亡がみられていましたが、1950年に狂犬病予防法が制定され、輸入感染症例を除けば、1956年の6頭のイヌ、1957年のネコの発生を最後に国内での狂犬病の発生はありません。

一方、世界では150以上の国と地域で発生しており、毎年、イヌ等の動物に咬まれたりした1,500万人以上の方が曝露後の予防接種を受けて、約5~6万人が死亡しています。その多くがアジア、アフリカで、ヒトの生活圏のイヌ(アジアの街中ではつながれていないイヌや放浪犬がよく見られます)からの感染が主たる流行の形態(都市型狂犬病)を取っています。

狂犬病の恐ろしい症状、発症したら打つ手なし

ヒトでも動物でも症状はほぼ同じです。潜伏期間は早いと1週間、平均1~3か月、長いと1~7年という報告もあります。体内に侵入したウイルスは末梢神経を介して中枢神経に達し、そこで大量に増

えてまた末梢神経組織に拡がり、唾液腺でも増殖します。発病したヒトや動物は咽喉頭が麻痺して唾液を飲み込むことができず、結果としてウイルスは唾液とともに体外に排泄されることとなります。発病すると約8割は物事に極めて過敏になり、狂躁状態となって、動物では目の前にあるもの全てに咬みつくこととなります(狂躁型)。その後全身麻痺が起こり、最後は昏睡状態になり、ほぼ100%死亡します。約2割で発病後、終始麻痺状態です(麻痺型)。有効な治療・救命法はありません。

日本でイヌの狂犬病ワクチン接種率低迷中

厚生労働省によると2018年度の犬の狂犬病ワクチン接種率は71.3%(予防接種頭数/登録頭数)、実際の推定接種率は49.9%(2018年度予防接種頭数/ペットフード協会調べの2018年推計飼育頭数)でした。この乖離は、義務付けられている市区町村への犬の登録を怠っているためとみられています(年1回の狂犬病予防接種も義務)。WHOのガイドライン上、イヌの狂犬病ワクチン接種率70%以上が国内侵入時のウイルス蔓延を防止する目安とされ、もし輸入動物などで狂犬病が入り込むと、蔓延しやすい状況といえます。2019年6月19日に「動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律(改正動物愛護法)」が公布され、2022年6月までに、販売業者の段階から飼い犬などにマイクロチップの装着が義務付けられ、購入で所有者が変わると飼い主の変更申請となります。市区町村にも通知され、予防接種の案内も届くため、接種率が上がると期待されています。



狂犬病流行地渡航前にワクチンを、咬まれたらワクチン等を

北米・グアム・ハワイ諸島・フィジー諸島・オーストラリア・ニュージーランド・西ヨーロッパ・北ヨーロッパ以外への渡航には曝露前接種が望ましいでしょう。GSK社のラビピュール®(又は輸入ワクチンのサノフィパスツール社のVERORAB®)なら、曝露前接種は3回で、最短3週間要ります。当科でも可能です。流行国で動物に咬まれたり、傷口を舐められたりしたときは、まず傷口を流水と石鹸で15分以上十分に洗い、可能なら70%エタノールなどで消毒します。その後なるべく早く現地で狂犬病ワクチン(曝露後接種)を投与します。曝露前接種をしていなければ咬まれ方により免疫グロブリン製剤も投与します。状況により破傷風トキソイド、抗菌剤の投与も考慮します。曝露後接種は適切な間隔を空けて全部で4~6回行います(曝露前接種完了者は少なくとも3日後に2回目を)。あとは発症しないのを祈るのみです。ちなみに咬んだ動物がその後10日間健康等なら、治療は中止可です。

出典:共同通信HP 2020年6月15日『狂犬病発症の男性死亡、フィリピンで感染、愛知』、海外渡航者のためのワクチンガイド/ガイドダンス2019 P.100-105、『狂犬病ワクチン』、予防接種に関するQ&A集2019 P.303-311、『狂犬病』、読売新聞 2020年5月5日『狂犬病の予防接種 低迷』、厚生労働省検疫所FORTH HP『犬に咬まれないよう注意!』、『疾患別解説 狂犬病』、日本獣医学会HP『わが国への侵入/蔓延が危惧される動物由来感染症 狂犬病』、大阪府獣医師会HP『日本の狂犬病の歴史』、厚生労働省HP『都道府県別の犬の登録頭数と予防接種頭数等(平成25年度~平成30年度)』、農林水産省消費・安全局『狂犬病について』

新型コロナウイルス感染症備忘録

「堺市 新型コロナ受診相談センター」

TEL [072-228-0239](tel:072-228-0239)(月~金の9~20時。土・日・祝の9~17時半。この時間以外では緊急のご相談のみ対応となります。自動音声アナウンスにての案内です)又は FAX 072-222-9876

出典: 堺市HP『新型コロナ受診相談センター(帰国者・接触者相談センター)』更新日:2020年6月23日

車待機方式を継続中、予防接種日を期間限定で拡大中

いつもの毎週水曜日の午後1時半からに加え、4月23日から10月8日までの期間限定で、木曜の16:30から、希望の方が多ければ16:00から17:00に予防接種を実施中です。

風しん第5期定期接種の抗体検査・予防接種 受付中

堺市在住の昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生の男性は、風しん第5期定期接種のクーポン券がなくても堺市の契約医療機関で検査や予防接種が可能です(窓口で身分証明は必要)。平成26年4月以降に検診などで基準値以下の抗体結果をお持ちの場合は抗体検査を省略できます。

出典: 堺市HP『昭和37年4月2日から昭和54年4月1生まれの男性の方へのお知らせ(風しんの抗体検査および風しんの第5期の定期接種について)』更新日2020年6月18日

7月・担当医の変更

11日(土) 片桐→赤澤
25日(土) 片桐→赤澤
28日(火) 赤澤→片桐